

「令和4年度 定期総会・技術士新規合格者技術講演会」開催報告

1. はじめに

道南技術士委員会では、令和4年6月10日(金)に定期総会を開催し、続けて第1回のCPD研修会として令和2年・3年の技術士試験の新規合格者による「新規合格者技術講演会」を開催しました。また、「with コロナ時代」への取り組みとして本委員会では初めての試みとなる対面研修とオンライン研修のハイブリッド研修会を試行開催いたしました。

研修会参加方式の選択制については、コロナ禍当初より委員会会員の悲願であり、実行委員も目標としておりましたので、遅ればせながらも実現できたことを嬉しく思っています。

この度の定期総会・研修会は、対面参加者30名、オンライン参加者6名の計36名の開催となりました。

2. 定期総会実施概要

開催日時：2022年(令和4年)6月10日(金)

14:00～15:00

開催場所：シエスタハコダテGスクエア 研修室

「令和4年度 道南技術士委員会 定期総会」次第

- I. 代表開会挨拶
(代表代行：中谷副代表)
- II. 道南技術士委員会の年間活動報告(中谷)
- III. 令和3年度 決算報告及び監査報告
(決算報告：奈良、監査報告：吉田)
- IV. 令和4年度 事業計画及び予算案説明
(事業計画：中谷、予算案説明：奈良)
- V. 令和4年度委員会役員を選出・承認(中谷)
- VI. 令和3～4年度 技術士第二次試験新規合格者の紹介(中谷)
- VII. 道南技術士委員会活動の紹介(中谷)
- VIII. 閉会挨拶(奈良幹事長)

※敬称略



図-1 開会挨拶をする中谷副代表(※著者)



図-2 予算案の説明を行う奈良幹事長

令和3年度はコロナ禍により、研修会規模と頻度を縮小しながらの活動となりましたが、令和4年度は以前のように活発な活動を再開したいと著者が冒頭で表明した上で、令和4年度の事業計画案を説明しました。計画では、道南の地域特有の研修会やツアーの企画案を説明し、参加者の方々も大きな期待を持たれたことと思います。

3. ハイブリッド研修会の試行

(1)LIVE 配信の計画

LIVE 配信を計画するにあたり、事前に開催した幹事会で、以下の課題がありました。

◇課題

- ・ PC 接続の WEB カメラでは画質が悪い。
- ・ オンライン会議のような双方向通信では受信者の準備負担が大きい。(ログイン操作が難しい)
- ・ 会場の雰囲気が伝わりにくい。

これに対して以下の手法で解決しました。

◆解決策

- ・ 市販の高画質ビデオカメラを PC にエンコーディングすることができる市販のカメラアダプタを介して取込み、高画質配信を実現する。
- ・ YouTube の無料チャンネルを活用した参加者限定の LIVE 配信として発行 URL をクリックするだけで視聴可能とする。
- ・ 登壇する発表者とスライドスクリーンを一括撮影し、スクリーン情報と会場の雰囲気を同時配信する。
- ・ スクリーンの文字など見えにくい事が予想されるので事前にスライド資料を配布する。

(2)LIVE 配信の準備



図-5 機器接続モデル図

- ・ 機材については、所属組織の備品を借用。
- ・ 配信用のアカウントは、委員会で無料取得。
- ・ Wi-Fi ルーターを使用した場合の映像情報の遅延テストを実施。(最大 2 秒程度の遅延)
- ・ 参加者への視聴方法説明書の作成。

これらの準備を整えた上で、LIVE 配信参加者の出席は配信チャンネルに併設されたチャット機能を用いて確認し、CPD 参加票は出席が確認された参加者に対して、メール送信する方法としました。



図-3 LIVE 配信機器席



図-4 LIVE 配信画面



図-6 LIVE 配信視聴方法説明書

今回の LIVE 配信方式は、これまでのオンライン会議方式に比べて参加操作が簡便で接続障害が生じにくい配信環境を実現できました。

4. 技術士新規合格者講演会

道南技術士委員会では、難関である技術士第二次試験を突破し、新たに技術士となられた技術者の紹介と更なる技術士輩出の動機付けを目的として新規合格者による講演会を開催しております。

令和2年度、令和3年度の各1名に講演依頼し、登壇して頂きました。

開催日時：2022年(令和4年)6月10日(金)
15:00～17:30

開催場所：シエスタハコダテGスクエア 研修室

(1)令和2年度 合格者講演

伏見 行弘 技術士

所属：鈴木中川建設株式会社

部門及び科目：建設部門(施工計画、施工設備及び積算)

演題：[技術士試験合格までの道のり]

1. はじめに：略歴の説明
2. 技術士受験の動機：口頭試験では述べなかった本心について
3. 施工計画を選択科目に選んだ理由：施工計画はすべての基本
4. 受験対策：社内に技術士がいない中、どのように勉強したか
5. 業務体験論文の説明：決して目新しい内容ではなくても合格できることを説明
6. 口頭試験の準備について：口頭試験で準備した内容について説明
7. 終わりに：技術士試験に障壁を作らない(弱小下請け企業勤務者でも合格できる！)

伏見さんは、講演のサブタイトルを「技術士を目指す若き技術者へのエール」と題しまして、はじめにご自身の建設業界に入職した経緯を「技術士になるまでに随分遠回りしました。」と建設業の作業員としてアルバイトしていた頃の経験などユーモアを踏まえてお話されました。

次に、口頭試験では述べなかった偽らざる本心という内容で、かつて苫小牧市役所に勤務されていた、発注者である恩師との出会いがとても大切な資格取得の動機付けになったことや、これまで遠回りしたからこそ、合格した時の喜びも人一倍であったことなどを包み隠さずにお話され、自分と同じように、技術士資格に興味を持ちつつも、踏み切れないで居

る技術者に対して、「もしかしたら自分も技術士になれるかもしれない」という期待を抱かせてあげたかった。とお話されました。



図-7 講演する伏見行弘 技術士

また、現場代理人の責務は施工計画にあると考えて取得科目を選びましたが、今後は総合技術監理部門と建設部門の他科目を受験する意思があり、年齢を重ねても夢を持つことは大切なことだと熱弁されました。著者も大いに共感しました。



図-8 熱心に講演に聞き入る研修会参加者

次に技術士試験の勉強の方法として、先輩技術士の指導を仰ぐことが近道だという事を、ゴルフレッスンを例に自分の経験論としてお話しされました。また、受験申込時に提出する技術体験論文にプロジェクトの大小よりもどのように考えて根拠ある解決策を導き出したかという「プロセス」が重要であると述べられました。

最後に技術士試験に挑戦するにあたり、会社の規模や、プロジェクトの大小などを理由に自分で障壁を作らないで欲しいと述べられて講演を終えられました。

(2)令和3年度 合格者講演

原 慶志 技術士

所属：七飯町役場 経済部 上下水道課

部門及び科目：建設部門(道路)

- 演題：[自治体職員の技術士取得について]
1. 自己紹介・略歴紹介
 2. 自治体の技術者とは
 3. 技術士への挑戦
 4. 技術士試験の概要
 5. 技術士を受験してみても
 6. 今後、技術士として

冒頭で原さんは、自己紹介としてこれまでの歩みや趣味である釣りに没頭されている時間が癒しの時間である事を紹介された上で、「現在の業務だけでは得られない多様な知見に触れ、技術者として自己の視野を広げるため、技術士取得への挑戦を決意しました。技術士一次試験、二次試験を先輩技術士の指導の下で必死に乗り越え、技術士となった今、地域の難しい課題の解決や、様々な技術者とのつながり、若手技術者の育成を目標に活動する所存です。」と決意を表明されました。

次に、自治体の土木技術者は、事業全体のマネジメントが必要であり、住民への説明責任が重いことから幅広い知識、経験が求められます。そのため、より良い公共事業を行うためには、担当職員の技術力が必要不可欠であると考えたと述べられました。



図-9 講演する原慶志 技術士

また、難関と言われている技術士資格を一次、二次ともに1回の受験で突破された原さんは、一次試験の勉強のポイントや二次試験願書申込～口頭試験

までの各受験ステージでの注意点を簡潔かつ、わかり易くまとめて説明されました。

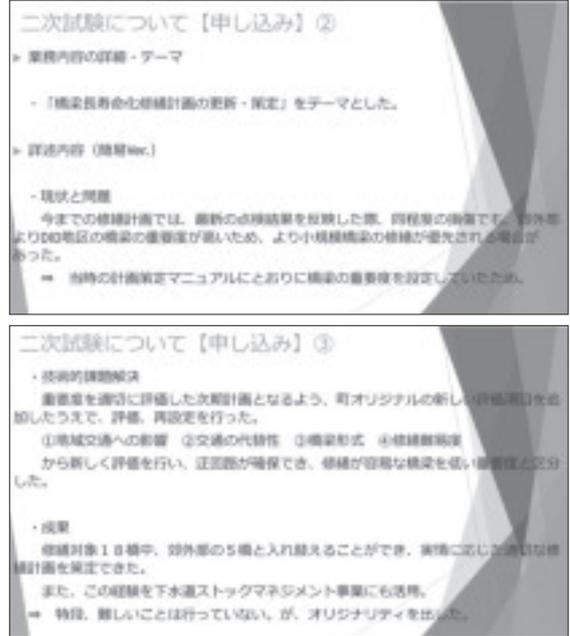


図-10 二次試験の申込時の経験詳述のポイント

最後に、技術士試験を受験してみて、合格までの近道は、職場の垣根を超えて周囲の先輩技術士にアドバイスを仰ぐことが重要であるということと、日々の業務への取り組みを一生懸命に行い、技術の力を付けることとお話されました。また、今後は技術士として建設行政DXの推進や新技術の活用、地域産官学連携への協力、若手技術者の育成活動を行いたいとビジョンを述べられて講演を終えられました。

5. おわりに

この度の研修会講演依頼の申し入れに際して、快くお引き受け頂いたお二人の技術士に、この場を借りて深く感謝申し上げますと共に、研修会に参加された技術士を目指す技術者にとって実り多い研修会であったと考えております。

道南技術士委員会では、今後も組織の垣根を超えて地域に根付いた、高度な専門の応用能力を持つ技術者育成をサポートしていく事を目標の一つとして研修会を企画、運営していきます。また、今回試行したハイブリッド研修会は「多様な働き方」をサポートすることができる研修会受講の選択手段として必要不可欠であると考えます。